

恵里愛(めぐりあい)プロジェクト

グループ名 : 生物多様性・めぐりあいちチーム

メンバー : 志水 剛、鈴木友代、矢嶋 航、米廣直樹

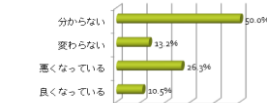
チューター : 後藤尚弘、藤井芳一、山崎真理子

現状の把握

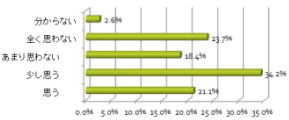
「人と自然が共生するあいち」実現のために何が足りないか？

- 主流化が進んでいない
- あいち方式が進んでいない

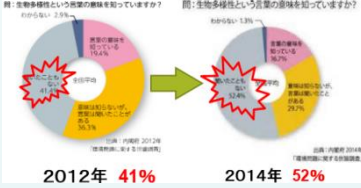
「生態系ネットワーク(生物の生息・生育空間(緑地や湿地等のつながり)はどのような状況だと感じますか？」



愛知目標の達成に向けて愛知県内で活動が推進していると思われるか？



生物多様性という言葉の認知度低下



2036年に向けての提言の概要

いきもの共生活動ネットワーク構想を提言
通称: 恵里愛(めぐりあい)プロジェクト

- ① 地域コミュニティを主体にプラトホーム(いきもの共生活動ユニット)を作る
- ② 県内の山・里・都市・沿岸それぞれの生態系が複合的、連続的に緻密にネットワーク化される。
- ③ 生き物の恵み(生物多様性)が県民ひとりひとりに対し身近なものとなる(主流化される)

「あいち方式」の生態系ネットワークの形成を推進、
人と自然が共生するあいちが実現

提案の内容

☆提言①

生態系ネットワーク推進を目的とした組織づくり

県の組織の中に横断的な各部局からなる、「あいち豊かな恵みを届ける委員会」を組織する。

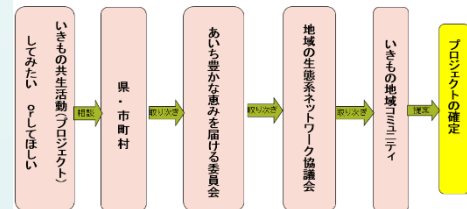
☆提言②

いきもの共生活動ユニット単位の生態系のネットワーク化

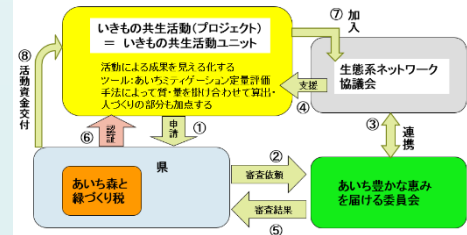
1. あいち方式のルール化
2. いきもの共生活動の登録&認証システム
3. 人材育成

提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)と実現可能性

STEP1 プロジェクト確定 までのステップ



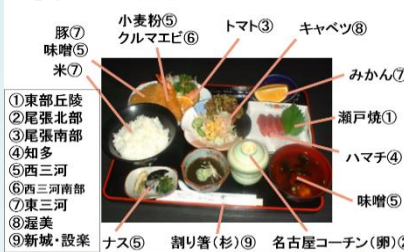
STEP2 認証までのステップ



波及効果

COP10の聖地
愛知県から世界へ
国際先進広域自治体連合協働体の
チャンネルを活用し、
世界へ情報発信する。

生態系サービスの恵み



生態系サービスのネットワーク

波及効果

